

クモ膜下出血術後の長期心拍変動リアルタイム解析による遅発性脳虚血発生予測の検討

■ 研究の対象

2020年6月1日から2021年5月31日までに当院でクモ膜下出血のため集中治療管理された方

■ 研究目的・方法

クモ膜下出血の患者さんに脳血管攣縮がみられると、遅発性脳虚血へと移行しやすく、高い確率で神経学的機能予後の悪化や死亡につながるといわれています。クモ膜下出血の最初の出血後に生存している患者さんのうち、25～30%で遅発性脳虚血が発症するといわれていることから、その兆候を早く予測することは重要なことです。

クモ膜下出血の患者さんは、自律神経バランスを心拍変動により評価することで、予後を予測できるという報告がありますが、遅発性脳虚血やその発症と強い相関のある脳血管攣縮発症を予測できるということまで詳しく調べられた研究報告はありません。

この研究は、クモ膜下出血の患者さんの周術期心拍変動を長期間記録、実時間解析し、自律神経バランスの傾向をリアルタイムに監視することで、遅発性脳虚血や脳血管攣縮発症の予測が果たして可能かを検討することを目的としています。

■ 研究実施期間

2020年5月20日～2021年5月31日

■ 研究に使用する情報

ベッドサイドモニターからの心電図波形を中心に、患者さんの情報（年齢、性別、重症度、バイタルサイン、基礎疾患、合併症など）を使用します。

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 救急科 前原潤一（研究責任者） 住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)
-----	--

以上